

濱文庫に所蔵される南潯戯単の由来について : 附 : 濱一衛著「劉氏の嘉業堂」

中里見, 敬
九州大学言語文化研究院 : 准教授 | 附属図書館研究開発室 : 室員

<https://doi.org/10.15017/27250>

出版情報 : 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2012/2013, pp.1-10, 2013-09. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :



濱文庫に所蔵される南潯戲単の由来について

— 附：濱一衛著「劉氏の嘉業堂」 —

中里見 敬[†]

<抄録>

九州大学附属図書館の濱文庫に所蔵される中国演劇の戲単（芝居番付）183枚（ほかに説明書3枚）のうち、上海および湖州南潯鎮の戲単計8枚は、濱一衛がいつどのようにして入手したのか来歴が不明であった。このたび濱一衛が1969年に書いた「劉氏の嘉業堂」という文章が見つかり、南潯訪問および観劇の経緯が明らかになった。本稿では濱一衛著「劉氏の嘉業堂」の全文を再録し、また「濱文庫所蔵戲単目録（第二版）」も掲載する。

<キーワード> 濱文庫、浜文庫、濱一衛、浜一衛、戲単、芝居番付、南潯、劉承幹、嘉業堂、董康、施維藩

Nanxun Playbills in the Hama Collection of Kyushu University Library

— With a Supplement of “Jiaye Tang Library of the Lius” by Hama Kazue —

NAKAZATOMI Satoshi

1. 濱文庫所蔵戲単の枚数および内訳

九州大学附属図書館の濱文庫には、中国演劇の戲単（芝居番付）が約180枚所蔵されている。これは元本学教養部教授で中国演劇研究者であった濱一衛（1909～1984）が主として1934～36年の北平（現在の北京）留学中に収集したものからなり、中国の戲単のコレクションとしては国内最大のものである¹。うち120枚の戲単は濱の留学期間と重なることから、その多くは濱自身が観劇した際に持ち帰ったものだと考えられる。

筆者は前稿「濱文庫所蔵戲単編年目録」で、これらの戲単を年月日順に整理するとともに、その内訳を北平170枚（話劇2枚を含む）、奉天（現在の瀋陽）1枚、天津1枚、開封2枚、上海6枚（戲報2枚を含む）、湖州南潯鎮2枚、地点不明4枚の計186枚とした²。その後の調査により、地点不明としたうちの1枚は北平・開明大戲院のものと判明した（図1～3）³。ただし、一般の戲単と異なり、2枚二つ折り、全8頁からなる小冊子形態で、内容も写真、本事、劇詞、広告からなる。残る3枚（浜文庫/集181/49, 68, 115。前2枚は同一）は、そのうち1枚が中丸均卿・濱一衛著『北平的中国戯』39頁に「梅派女優陸素娟の説明書」とのキャプション付きで掲載されていることから、劇場の戲単とは区別して、演目の特色・梗概・劇詞などを解説した説明書として扱うのが適当であろう（図4, 5）。

以上の結果をふまえて前稿を修正すると、濱文庫に所蔵される戲単の枚数は全183枚となる。その内訳は、北平171枚（話劇2枚を含む）、奉天1枚、天津1枚、開封2枚、上海6枚（戲報2枚を含む）、湖州南潯鎮2

枚である。そして、別に演目の説明書3枚（うち2枚は同一）が所蔵される。



図1（左）北平・開明大戲院 表紙「劈山救母 花蕊夫人劇本／尚藝員小雲便影」18.7×13.3cm（浜文庫／集181／未整理）

図2（右）同 口絵「尚藝員小雲花蕊夫人劇影」

（浜文庫／集181／未整理）



図3 同 2～3頁「尚小雲藝員／劈山救母實蓮燈劇詞」「花蕊夫人本事」（次頁「花蕊夫人劇詞」）（浜文庫／集181／未整理）

[†] なかざとみ さとし 九州大学言語文化研究院准教授、附属図書館研究開発室室員 E-mail: naka@flc.kyushu-u.ac.jp

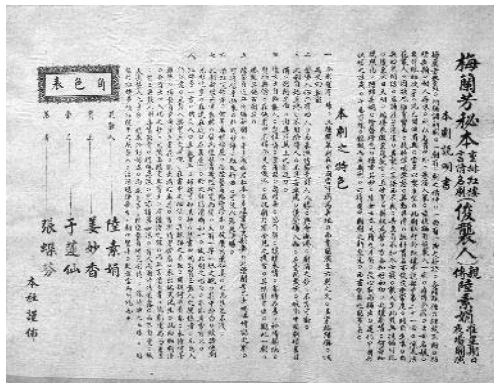


図4「俊襲人」(陸素娟主演)説明書 24.1×31.5cm
(浜文庫/集 181/49)



図5「金瓶女」(李世芳唱)説明書 20.9×27.9cm
(浜文庫/集 181/115)

2. 濱文庫所蔵戲單のうち由来不明のもの

北平以外の戲單に関して、天津・中原公司遊芸場の戲單1枚および開封・永安舞台の戲單2枚については、濱自身による旅行記に以下のような記述があることから、旅行中に観劇した際の戲單であることがわかる⁴。

午前十一時五十分汽車は天津に着いた。総領事館
パスポート
で執照を受取って、夜の汽車の時間までを中原
会社の遊芸場で過した。三層の落子館、四層の評
戲場電影、五層の大劇場と皆観て二毛というから
廉い。(中略)大劇場の皮簧は玉堂春を演っていて、
しばらく覗いて観たが別に変わった事も無いし、四
楼の評戲も北平の評戲と全然変りが無いので、三
楼の落子館を聴く事にした。(pp. 198-197)

其晩食後相国寺境内にある永安舞台へ行って、老
義成班の河南梆子(土戲)を聴いた。馬双枝、王
潤枝、張心田等の一座で、女優が中心の様であ
った。(中略)最初の日には後本梅降雪、二日目には
頭本紫金鑲を看たが何れも只管物語が進んで行く
丈で芸の見せ処が無い。(pp. 189-188)

一方、奉天、上海、湖州南潯鎮の戲單については、
これまで濱一衛がどのような経緯でこれらの戲單を入
手したのかは不明であった。奉天、上海といった大都
市はともかく、なぜ湖州南潯鎮の戲單が残されている
のか、もし濱自身が観劇したのであれば、なぜわざわざ
この南方の小鎮を訪れたのか、こうした疑問を解
く手がかりはこれまで得られていなかった。このたび、
濱一衛自身の文章により、一連の経緯を確定するこ
とができたので以下報告したい。

3. 濱一衛著「劉氏の嘉業堂」による由来の解明

筆者は最近、九州大学学術情報リポジトリを検索し
ていて、偶然にも濱一衛著「劉氏の嘉業堂」(『図書館
情報：九州大学附属図書館月報』vol. 5, no. 7/8, 1969. 8.
いま <http://hdl.handle.net/2324/18023> で公開)というエ
ッセイを発見した。この文章は、公刊されている濱の
2種類の研究業績表のいずれにも採録されておらず、
忘れられていたといってよいものである⁵。筆者は2009
年5月に九州大学附属図書館中央図書館で開催された
展示会「濱一衛と京劇展：濱文庫の中国演劇コレクシ
ョン」の準備や図録作成にあたり、また2011年3月に
花書院より濱文庫所蔵の未刊原稿を『中国の戯劇・京
劇選：濱一衛著訳集』として刊行するにあたり、可能
な限り濱の書いた文章を博搜しようと試みた。にもか
かわらず、迂闊なことに「劉氏の嘉業堂」という文章
の存在には気づかないままであった。この文章を含む
『図書館情報：九州大学附属図書館月報』の巻号がリ
ポジトリに登録されたのが2010年9月10日であった
ことも筆者の見落としの一因であったかもしれない。
いずれにせよ、この「劉氏の嘉業堂」という一文によ
り、上述の戲單の由来に関する疑問は水解することと
なったのである。

「嘉業堂をたずねたのは昭和十一年春のことであ
った」と始まるように、このエッセイは濱が1936年6
月の帰国直前に、南潯の劉氏嘉業堂を訪れたことを
回顧したものである。嘉業堂とは蔵書家・劉承幹
(1882-1963)の私設蔵書楼であり⁶、1920年代には約
60万巻の書籍を擁し、しかも宋元刻本91種、明刻本
841種、明清抄本741種もの善本を誇るなど、当時最
大の私家蔵書楼であった⁷。だが、濱の訪問した1936
年にはすでに蔵書の売却が始まっており、徐々に嘉
業堂の衰退が始まる時期であった。

濱はこの旅行の行程を次のように記している。「こ
の時は一月あまりの旅行で、北京を出て天津、大連、
瀋陽(奉天)と東北をまわり、大連から船で上海に出
て、杭州により蘇州に出た。嘉業堂のある南潯は蘇
州の閶門から呉興(湖州)への運河の途中で下りる。」こ
の記述により、上海の戲單6枚、すなわち

1936 年 4 月 26 日 上海・更新舞台
(浜文庫／集 181／43)
1936 年 4 月 26 日 上海・栄記大世界 (戯報)
(浜文庫／未整理 209) ⁸
1936 年 4 月 27 日 上海・天蟾舞台
(浜文庫／未整理 210)
1936 年 4 月 27 日 上海・劇世界 (上海版) (戯報)
(浜文庫／未整理 211)
1936 年 5 月 3 日 上海・金城大戲院
(浜文庫／集 181／44)
年月日不詳 上海・天蟾舞台
(浜文庫／未整理 267)

は、南潯に到る途中で観劇した際の戯単または戯報であることが確認される。日付の記載がない戯単 1 枚についても、この旅行中のものと見なして間違いあるまい。ついで、南潯の戯単 2 枚、すなわち

1936 年 5 月 6 日 南潯・張王廟橋民衆教育館
(浜文庫／集 181／52) (図 7)
1936 年 5 月 7 日 南潯・張王廟橋民衆教育館
(浜文庫／集 181／51) (図 8)

も、同じ旅行で観劇したものであることが判明する。一方、奉天の戯単 1 枚、すなわち

1935 年 5 月 31 日 奉天・共益舞台
(浜文庫／集 181／35)

は、この旅行とは別の、前年のものである。また、天津の戯単 1 枚は、これに先立つ同年 2～3 月の曲阜徐州開封洛陽西安旅行の途中で観劇したものであることは上に述べたとおりである。

濱一衛は董康 (1867-1947) ⁹ の紹介状を携えて、嘉業堂で本を見るために南潯を訪問した。そして、そのときたまたま南潯で巡業公演していた蘇州・文全福一座の崑曲を観劇する機会に恵まれたのである。濱は次のように記している。

この嘉業堂に何日ご厄介になったかは記憶にはないが、一日や二日でなかったことは確かである。それはちょうどこの町に巡業に来ていた蘇州の「文全福」という一座の「崑曲」(京劇を歌舞伎とすると能に当る) に二日つづけて案内されたからである。座頭は朱伝茗で、演劇史上に不朽の名をのこした「崑曲伝習所」の出身で、一座の俳優にもみな伝の字がついていた。この系統の南方崑曲 (日本来演の韓世昌は北方崑曲) を江南の地できけたことは、たいへんな僥倖だと思っている。

中国側の資料にはさらに詳しい事情が記されている。

1936 年 5 月 3 日 日本京都文化会的日濱一卫持董康介绍函至上海刘宅，欲至南潯书楼参观，刘承幹作书交代施韵秋予以接待。

〔日本の京都文化会の濱一衛が、董康の紹介状を持って上海の劉宅を訪れ、南潯で蔵書楼を参観したいとのこと。劉承幹は手紙を書いて、施韻秋に應對するよう言い渡した。〕¹⁰

濱はまず 5 月 3 日に上海で劉承幹に面会し、参観許可を得たうえで、劉承幹が蔵書楼の編目部主任・施維藩 (1897～1944，字・天遊，号・韻秋) 宛にしたためた手紙を持って南潯の嘉業堂を訪れたのである。そして、中国の演劇を研究しているとでも自己紹介したのであろうか。濱は 5 月 6 日、7 日の両日たまたま当地で巡業していた崑曲上演に案内されたのである。ちなみに、かつて中国では客人を招いて芝居を鑑賞することは、接待の常套であった。

現在、濱文庫に所蔵されている『嘉業堂善本書影』(上海：劉氏嘉業堂，1929。浜文庫／史 13／1) には、「濱一衛先生惠存／丙子立夏日海門施維藩持贈」との書き込み、および「韻秋」という朱印が見える (図 9, 10)。旧暦の「丙子立夏日」は、新暦の 1936 年 5 月 6 日にあたる。これにより江蘇省海門出身で嘉業堂の編目部主任 (楼主任) を務めていた施維藩 (韻秋) より、この訪問時に贈られたものであることがわかる¹¹。ほかに、濱文庫に所蔵される絵葉書 (濱文庫／追 2008／49) のうち、「上海風景繪葉書」「杭州西湖三十二景」「蘇州十六景」「虎邱古蹟風景」はこの旅行中に入手したものであろう。一方、「奉天故宮博物館照片」第 1～6 輯には「奉天博物館 康德 2 年 5 月 30 日」の押印があることから、前述した 1935 年 5 月 31 日奉天・共益舞台の戯単を入手した前年の旅行で購入したことが確認される。以上が、濱一衛「劉氏の嘉業堂」、および関連資料によって明らかになった南潯訪問および南潯での観劇の経緯である。

これまでに濱一衛は北平留学中、周作人 (1885～1967) 邸に寄寓していたこと、また 1956 年中国訪日京劇代表団の福岡公演を機に欧陽予倩 (1889～1962) と交流のあったこと等は明らかになっていたが¹²、今回新たに董康、劉承幹という一流の政治家・蔵書家より厚遇を受けていたことがわかった。弱冠 27 歳の濱が当時 69 歳の董康および 54 歳の劉承幹の知遇を得たことは、濱自身の人柄や向学心によることはいままでのまなかろう。だが、このエピソードをたんなる日中文化交流の佳話として片付けることはいささかナイーブなように思われる。事実、濱訪問の翌 1937 年 7 月に盧溝橋事件、8 月に第二次上海事変が発生し、濱の文章にあるとおり、11 月 19 日にはついに南潯および嘉業堂も

日本軍の占領下に置かれることになったのである¹³。



図6 南潯周辺地図

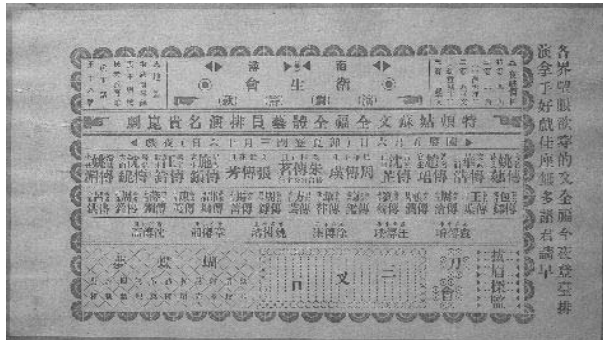


図7 南潯・張王廟橋民衆教育館

1936年5月6日 20.8×37.5cm (浜文庫/集181/52)

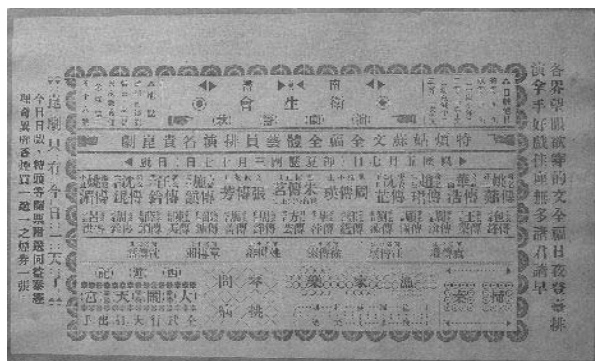


図8 南潯・張王廟橋民衆教育館

1936年5月7日 21.9×37.1cm (浜文庫/集181/51)

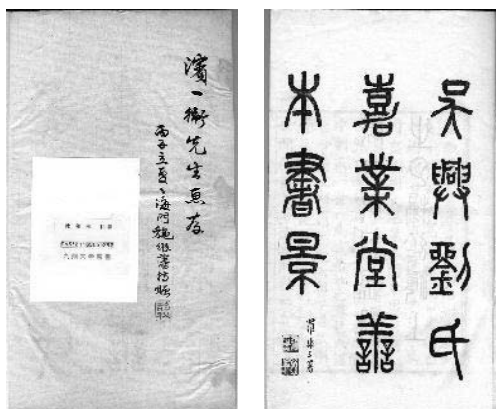


図9 (左)『嘉業堂善本書影』見返しの書き込み

(浜文庫/史13/1)

図10 (右) 同 封面 (浜文庫/史13/1)

4. 濱文庫所蔵戯単の由来による4分類

以上の考察により、濱文庫所蔵の戯単全体はおおむねその由来が明らかになった。まとめるとほぼ以下の4類に分けることができるだろう。

第1類：1934年5月13日より1936年6月15日までの濱一衛の北平留学期間に、北平で観劇した際の戯単。濱文庫所蔵戯単の中核を占めるコレクションであり、約120枚からなる。ただし、南潯旅行の期間と重なる1936年5月4日の北平・中和戲院の戯単が所蔵されることから推測されるように、請求番号の付されていない未整理分には、濱自身が観劇したとは限らない戯単が含まれているようである。

第2類：1936年2月29日より曲阜・徐州・開封・洛陽・西安を旅行した際に観劇したもの。以下の3枚が含まれる。

1936年2月29日 天津・中原公司遊芸場

1936年3月3日 開封・永安舞台

1936年3月4日 開封・永安舞台

第3類：本稿で明らかになった1936年4月より約1ヶ月にわたって天津・大連・奉天・上海・杭州・蘇州・南潯と旅行した際に観劇したもの。前節で見たように、上海6枚、南潯2枚の戯単が含まれる。

第4類：濱一衛の留学期間に含まれない戯単。1934年5月13日以前のもものが2枚、1936年6月15日以降のもものが58枚あり、すべて北平のものである。うち51枚は請求番号が付されていない濱文庫未整理の戯単で、しかも大半が華樂戲院の戯単である。筆者は前稿で、1939年7月から8月にかけて濱が北京を再訪した際、誰かに収集を依頼していた戯単を持ち帰ったのではないかと推測した¹⁴。特定の劇場の戯単に偏っていることから、劇場関係者であったかもしれない。

以上の考察をふまえて作成した「濱文庫所蔵戯単目録(第二版)」を本稿篇尾に掲載する。前稿の「濱文庫所蔵戯単編年目録」では、請求番号が付されて台紙に貼付された「濱文庫(整理済み分)戯単編年目録」と、請求番号が付与されず台紙にも貼付されていない「濱文庫(未整理分)戯単編年目録」とに分けて別々に目録を編纂したために、全体を年月日順に通覧できない憾みが残った。そこでこの第二版ではすべての戯単をまとめて年月日順に配列し、年月日不詳のもののみ末尾に置いた。戯単自体には年月日の記載がないものの、本稿で同じ旅行中のものと推定した上海の戯単1枚は、旅行の行程にあわせて配列した。また第一版の誤りを正したものについては、備考欄にその旨を注記した。

次節には、濱一衛著「劉氏の嘉業堂」の全文を再録する。写真2点も原文に掲載されていたものである。

附：濱一衛著「劉氏の嘉業堂」

劉氏の嘉業堂

濱 一 衛

嘉業堂をたずねたのは昭和十一年春のことであった。何しろ三十年の昔話で恐縮ではあるが、ここに収蔵の書物は宋元の善版本であってみれば書物の方も古いということでごしんぼう願いたい。

この時は一月あまりの旅行で、北京を出て天津、大連、瀋陽（奉天）と東北をまわり、大連から船で上海に出て、杭州により蘇州に出た。嘉業堂のある南潯は蘇州の閶門から呉興（湖州）への運河の途中で下りる。ところが出発の前夜になって呉興への入境許可の旨が旅券に記入してないことに気づいたのだが、せっかく北京で董康氏（もと大蔵大臣、司法大臣で出版文化事業に大きい功績を残されたかた）より嘉業堂への丁重なお手紙をいただいていたし、今度の旅行の大きい目的の一つでもあったので、万一途中で検問にひっかかれればその時のことと意を決して、朝も早い七時の船にのった。前日から多量の新聞を買いこんで船中で相客に話しかけられて、警乗の巡警に気づかれることのないようにするつもりであった。この船は運河の割にしては大きく、長さも二十米はあったろうか、六人ぐらい坐れる船室がいくつもならんでいた。出発の時にも途中でも、幸い乗客の一人一人に対する検問はなかった。大きい客船をひき船が曳いてゆくのだが、眼鏡橋の下を通りぬける時など十糧の余裕もないようであった。南潯へは三時すぎについた。

南潯の船着場でも見とがめられることなく一キロ余りの道を挑夫（赤帽）もやとわず目立たないようにして、南柵にある蔵書楼に急いだ。刑務所のように高い白壁の塀が延々とつづき、その上には高圧電流を通した電線が張りめぐらされ、正門は頑丈な大きい鉄の開き戸になっていた。ベルを押すと故障かと思うほどながく待たされて、その鉄扉の小さいのぞき窓が開く。紹介状をわたすとまた小まどがしまつて長く待たされる、これにはうんざりした。ここで泊めてくれねばどうしようかというあせりがあった。やっと小門よりいれられ、いくつかの門を通して本館についた。正門よりは百何十米かはあったろう。表で随分待たされたはずである。

客間で主任の施維藩さんにお目にかかり、早速旅館の紹介を請うたところ、ここは町の方からも遠いし、幸いいま館員の一人が帰郷しているから寝台が一つ空いている、それをお使いなさいという。有難かった。

旅券のないものが旅館に泊まれるはずもない。館員さんと同室でやすむのであるが、中国の人は人見しりをしないから、永年の知己のように話してくれる、紹介状一本で飛びこんで来た外国人をである。しばし雑談して、さあねましようというとその館員さんは、さつと全裸になりそのまま寝台にもぐり込んだ。使用を許された寝台もそうかと思うと些かの気おくれがしないでもなかったが、もとより文句のいえようはずもない。

翌朝七、八人の館員さんと卓子を囲んで朝食をとり、そのあと、主任は閲覧についての二、三の注意事項を述べられたが、驚いたのは書庫は全部開いてあるから自由にご覧なさいといわれたことである。それは一般の書物のことで、善本室は別であると思いこんでいたが、善本室の方も開いていた。いつもこのようにして開放するのだそうである。主任は読書人は人の書物も自分の書物と同じように大切にします、といわれる。大きな二階建の善本書庫にはいった。楠木の正面には嘉業堂蔵書楼の文字を浮き彫りにした本箱が、千年の歴史の重さをたたえて整然とおかれ、えもいわれぬ書香が充満していた。

さてこの嘉業堂というのは呉興の人、劉承幹の書室で、書庫の正面には金色燦然たる御筆の大きい横額がかかっている。蔵書は光緒、宣統の間に十数年をかけておもむろに収集したものというが、宋元善本は袁芳瑛旧蔵のもの多く、天一閣本や四明盧氏抱經堂本もその基底になっているという。わが静嘉堂の蔵書の中心をなすものは、清末に四大蔵書家に数えられていた陸心源の二畝宋楼の旧蔵であるが、嘉業堂もこのたぐいの蔵書なのである。各地また各代に収集されたものが或いはまとめられたままに、或いは散逸して後の世に伝えられて来ているのである。

この嘉業堂に何日ご厄介になったかは記憶にはないが、一日や二日でなかったことは確かである。それはちょうどこの町に巡業に来ていた蘇州の「文全福」という一座の「崑曲」（京劇を歌舞伎とすると能に当る）に二日つづけて案内されたからである。座頭は朱伝茗で、演劇史上に不朽の名をのこした「崑曲伝習所」の出身で、一座の俳優にもみな伝の字がついていた。この系統の南方崑曲（日本来演の韓世昌は北方崑曲）を江南の地でできたことは、たいへんな僥倖だと思っている。

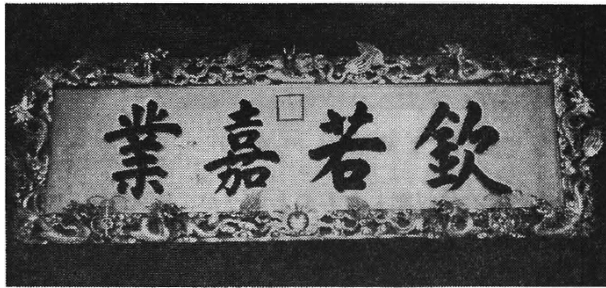
この芝居を見た日に甘酒をいただいている。夏至の厄払いだというようにきいたのであるが、歳時記をくっても夏至にちまきというのがあるが「體」というのは見当らぬ。ともかくおいしかった。酒にしる豆腐にしる、日、中に同じものは多いが、味の方は概はちがっている。ところがこの甘酒だけは堅ねりの日本

のものと寸分ちがわぬ美味であった。とはいえこれも三年離れた日本の味に舌の採点が甘かったのかも知れない。

また、ここではその一隅にあった木版の製作所を見学した。嘉業堂では稀見の古書や、今人の名著を多数刊行しているが、その木版をつくっていた。日本のそれと同じ形式で、洗濯のはり板のような長い版木である。

劉氏は蘇州で質屋を経営しているとか、塩で産をなしたとかきいたようであったが、その資産がこういうかたちで還元されているのであろう。先年の戦争ではここにも日本兵が入ったとかきく。無きずであれかしと祈るのみである。

(はま・かずえ：教養部教授，中国語)



書庫正面の金色の横額〔額〕¹⁵



嘉業堂蔵書楼の本箱

参考文献

- [1] 濱一衛，“劉氏の嘉業堂，” 図書館情報：九州大学附属図書館月報，vol. 5, no. 7/8, pp. 41-42, 1969. 8. いま <http://hdl.handle.net/2324/18023> 参照.
- [2] 中丸均卿・濱一衛，北平の中国戯，東京：秋豊園，1936.
- [3] “濱一衛教授略歴および研究業績，” 文学論輯（九州大

学教養部文学研究会）vol. 20, pp. i-iv, 1973.

- [4] “濱一衛教授研究業績，” 中国文学論集（九州大学中国文学会），vol. 4, pp. 4-5, 1974.
- [5] 目加田誠，“浜さんのこと，” 中国文学論集，vol. 4, pp. 6-7, 1974.
- [6] 上尾龍介，“那須さんの北京語：中国語の達人たち” 中国文学論集，vol. 11, pp. 7-20, 1982.
- [7] 中里見敬，“濱文庫所蔵戯単編年目録”，中国文学論集（九州大学中国文学会）vol. 37, pp. 155-168, 2008.
- [8] 中里見敬・中尾友香梨，濱一衛と京劇展：濱文庫の中国演劇コレクション，福岡：九州大学附属図書館，2009.
- [9] 濱一衛著，中里見敬整理，“曲阜徐州開封洛陽西安旅行記”，言語文化論究（九州大学大学院言語文化研究院）vol. 25, pp. 178-200, 2010.
- [10] 中里見敬，“濱文庫所蔵の歐陽予倩致濱一衛書簡について，” 中国文学論集，vol. 39, pp. 150-164, 2010.
- [11] 濱一衛著，中里見敬整理，中国の戯劇・京劇選：濱一衛著訳集，福岡：花書院（九州大学大学院言語文化研究院 FLC 叢書 3），2011.
- [12] 中里見敬，中尾友香梨，山根泰志，“濱文庫の概要と現状：1930年代を中心とする中国演劇資料の宝庫，” 九州大学附属図書館研究開発室年報，2011/2012, pp. 14-23, 2012.
- [13] 松浦恒雄，濱文庫所蔵戯単劇目俳優データベース，大阪市立大学大学院文学研究科重点研究・個別研究プロジェクト「二〇世紀中国演劇史における戯単・特刊の基礎的研究」，2008.
- [14] 松浦恒雄，“京劇戯単の変遷，” 新中国建国前後における伝統劇の多角的研究（平成 18-19 年度科学研究費補助金・基盤研究(C) 研究成果報告書（課題番号 18520273），2008.
- [15] 杜広沛収蔵，婁悦撰文，旧京老戯単：從宣統到民国，北京：中国文聯出版社，2004.
- [16] 中塚亮，“青木文庫蔵戯単目録，” 名古屋大学中国語学文学論集（名古屋大学中国語学文学会）vol. 20, pp. 1-20, 2008.
- [17] 中塚亮，“韓世昌による崑曲来日公演とその背景について：満鉄の弘報活動との関係から，” 名古屋大学附属図書館研究年報（名古屋大学附属図書館研究開発室）vol. 6, pp. 21-37, 2007.
- [18] 繆荃孫・呉昌綬・董康撰，呉格整理点校，嘉業堂蔵書志，上海：復旦大学出版社，1997.
- [19] 応長興・李性忠主編，嘉業堂志，北京：国家図書館出版社，2008.
- [20] 顧志興，浙江蔵書史，杭州：杭州出版社，2006.
- [21] 李性忠，“周子美与施韻秋：記南潯嘉業蔵書樓の両任主任，” 図書館研究と工作（杭州：浙江省文化庁）2007(1), pp. 73-75, 2007.
- [22] 柴田清継，“松崎鶴雄(1867-1949)と中国：あるテレビ番組をめぐって，” 日本と中国の基本的人間文化：その普遍と個別，西宮：武庫川女子大学関西文化研究センター，pp. 51-78, 2008.
- [23] 熊達雲，近代中国官民の日本視察，東京：成文堂，1998.
- [24] 芳村弘道，“董康『書舶庸譚』訳注（一），” 就實語文（就実女子大学日本文学会），vol. 12, 1991.
- [25] 芳村弘道，“董康『書舶庸譚』訳注（二），” 就實語文，vol. 13, 1992.
- [26] 芳村弘道，“董康『書舶庸譚』訳注（三），” 就實語文，vol. 14, 1993.
- [27] 芳村弘道，“董康『書舶庸譚』訳注（四），” 就實語文，vol. 15, 1994.
- [28] 芳村弘道，“董康『書舶庸譚』訳注（五），” 就實語文，vol. 16, 1995.

- [29] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』訳注 (六),” 就實語文, vol. 17, 1996.
- [30] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』訳注 (七),” 就實語文, vol. 19, 1998.
- [31] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』訳注補訂,” 就實語文, vol. 20, pp. 213-258, 1999.
- [32] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』九卷本譯注 (一),” 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要, vol. 1, pp. 83-96, 2007.
- [33] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』九卷本譯注 (二),” 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要, vol. 2, pp. 67-79, 2008.
- [34] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』九卷本譯注 (三),” 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要, vol. 3, pp. 65-87, 2009.
- [35] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』九卷本譯注 (四),” 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要, vol. 5, pp. 25-40, 2011.
- [36] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』九卷本譯注 (五),” 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要, vol. 6, pp. 53-64, 2012.

謝辞

濱一衛著「劉氏の嘉業堂」を再録するにあたり、濱先生のご令嬢・藤本康子氏よりご許可いただいた。大阪市立大学教授・松浦恒雄先生より濱文庫所蔵資料について種々のご教示を賜り、今回も戲単整理の問題について再考する機会を与えられた。濱一衛著「劉氏の嘉業堂」のリポジトリ登録の時期について、九州大学附属図書館 e リソースサービス室リポジトリ係の小柳真弓氏よりご教示いただいた。図版の掲載にあたり、九州大学附属図書館よりご厚意を賜った。

以上、謹んで謝意を表したい。

¹ ほかに国内所蔵の中国戲単として、名古屋大学附属図書館青木(正児)文庫に所蔵される1925~28年の戲単29枚が知られている。中塚亮「青木文庫蔵戲単目録」参照。

² 「濱文庫所蔵戲単編年目録」において紙幅の都合で掲載できなかった戲単の図版は、九州大学学術情報リポジトリに「戲単図録：完全版」として掲載した (<http://hdl.handle.net/2324/13200>)。そこでは都市・劇場別の戲単枚数を表に整理して掲げた。

³ 2009年2月13日付け大阪市立大学教授・松浦恒雄先生の私信により、開明大戲院は蘇州の劇場ではないかのご指摘をいただき、あわせて杜広沛収蔵、婁悦撰文『旧京老戲単：從宣統到民国』をご教示いただいた。しかし当時、北平にも同名の劇場があり、しかも戲単に記載された「前外西珠市口」という地名と一致することから、北平の開明大戲院だと判断される。「老北京網」の記事「開明大戲院」を参照(2013年5月15日確認, <http://cn.obj.cc/article-5300-1.html>)。『旧京老戲単』の第57, 66, 90, 113, 116番に北平・開明戲院の戲単が掲載されているが、濱文庫所蔵の2枚二つ折り、8頁からなる小冊子形態の戲単とは様式が異なる。同書は第85番に蘇州・開明大戲院、第128番には上海・開明大戲院の戲単も収録している。

⁴ 濱文庫に所蔵される未刊の自筆旅行記(濱文庫/日文戯曲/21)を整理・発表した濱一衛著、中里見敬整理「曲阜徐州開封洛陽西安旅行記」を参照。この旅行記には引用箇所前後に、詳細な観劇記録があり、当時の上演を知るうえで貴重なものである。

⁵ 一つは『文学論輯』第20号(九州大学教養部文学研究会, 1973)所収の「濱一衛教授略歴および研究業績」、もう一つは『中国文学論集』第4号(九州大学中国文学会, 1974)所収の「濱一衛教授研究業績」である。濱は1969年4月より1973年3月の定年退官まで、附属図書館教養部分館長の職にあった。そのため図書館広報誌の巻

頭エッセイ執筆のお鉢が回ってきたものと考えられる。

⁶ 劉承幹の祖父・劉墉(1825~1889)は生糸の卸売業で財を成し、父・劉錦藻(1862~1934)は1894年進士に及第した。劉承幹は清末から各地の蔵書家の蔵書を巨資で買い、近代中国有数の蔵書家となった。嘉業堂は1920年より4年がかりで建造された。解放後、蔵書は浙江図書館に寄贈され、嘉業堂蔵書楼は2001年に國務院より第5批全国重点文物保護単位の指定を受けている。

⁷ 呉格「前言」(『嘉業堂蔵書志』所収)による。

⁸ 請求番号の付与されていない未整理の戲単については、「濱文庫所蔵戲単編年目録」で付した201番以降の番号を記す。

⁹ 董康は1890年の進士。1905年に刑部候補郎中として日本の裁判・監獄制度を視察した。1907年修訂法律館提調となり、法律草案の起草にあたった。1911年、日本に留学して法律を修めた後、1914年帰国。まもなく大理院院長、その後、司法総長、財政総長等を歴任し、刑法・民法・訴訟法・監獄法等の起草・修訂に関わり、法律家・政治家として活躍した。濱が北平に留学した時期には北京大学法科教授の職にあり、前後して数回、中国法制史を講じるために日本を訪れている。その間の日本での訪書記録を綴った日記が『書舶庸譚』である。董康は著名な蔵書家でもあり、『誦芬室読曲叢刊』などを刊行している。また戯曲の故事来歴・作者等を考証した『曲海総目提要』をはじめ、戯曲史・詞学・版本目録学でも多大の功績を残した。日本傀儡政権で要職に就いたため、戦後、漢奸として獄死した。なお、董康は繆荃孫、呉昌綬の後を継いで蔵書目録『嘉業堂蔵書志』の編纂にもあたっており、劉承幹とは深い交流があった。

¹⁰ 徐曉軍「嘉業堂大事記」(応長興・李性忠主編『嘉業堂志』p. 16)。徐曉軍は出典を明記していないが、劉承幹の日記『求恕齋日記』(稿本)によっている可能性がある。『求恕齋日記』は北京の国家図書館出版社より2013年8月以降に出版予定とのことである。

¹¹ 施維藩の生没年は、李芳「第六章 人物」(応長興・李性忠主編『嘉業堂志』p. 252)による。李性忠「周子美与施韻秋：記南潯嘉業蔵書樓の両任主任」も参照。施維藩が年長者に対する「敬贈」ではなく、「持贈」という語を濱に対して使っていることから、施が濱より年長であることがわかる。施維藩は嘉業堂創建以来の職員で、蔵書の管理や副本の抄写にあたり、後期には戦争から蔵書を守り、さらに蔵書の売却にも立ち会った。

¹² 目加田誠「浜さんのこと」、上尾龍介「那須さんの北京語：中国語の達人たち」、中里見敬・中尾友香梨「濱一衛と京劇展」、中里見敬「濱文庫所蔵の欧陽予倩致濱一衛書簡について」等参照。

¹³ 劉承幹と交流のあった元満鉄大連図書館司書・松崎鶴雄が、第9師団司令部附の牧次郎・陸軍少将に対して行った進言により、日本軍は嘉業堂の蔵書を保護したとされる。応長興「第一章 綜述」(応長興・李性忠主編『嘉業堂志』pp. 77-84)、および柴田清継「松崎鶴雄(1867-1949)と中国」参照。

¹⁴ 中里見敬「濱文庫所蔵戲単編年目録」p. 166。

¹⁵ 「^{つし}飲んで嘉業に^し若ふ」と揮毫され、九龍で縁取られた金字の扁額は、清朝の末代皇帝・溥儀より賜ったもの。この2枚の写真は、カメラを愛用した濱自身が当時撮影したものかもしれない。

本稿は日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(C)

「濱文庫所蔵唱本目録の作成」(2011~2015年度、課題番号：23520437)による成果の一部である。



図11 蘇州横塘子橋

『蘇州十六景』(濱文庫/追2008/49)より

演文庫所蔵戯単目録(第二版)

第三版追加番号	演文庫所蔵番号	請求番号	西暦年	民国年	陽曆	陰曆	星期	昼夜の別	城市	劇場	戯班・科班	備考
1	201	未整理	1931	20	8月25日				北平	第一舞台		
2	1	演文庫/集181/50	1934	(23)	4月6日	3月4日	二	白天	北平	広徳戲院		
3	2	演文庫/集181/102	1934	(23)	6月30日		六	白天	北平	吉祥大戲院		
4	3	演文庫/集181/62	1934	(23)	8月30日		五	夜戯	北平	吉祥大戲院		
5	4	演文庫/集181/6	1934	(23)	8月17日		六	夜戯	北平	吉祥大戲院		吉祥戲院劇報 第148期第2種
6	5	演文庫/集181/8	1934	(23)	8月18日		六	夜戯	北平	開明劇院		開明戲院劇刊 第89期
7	6	演文庫/集181/103	1934	(23)	8月25日		六	夜戯	北平	開明劇院		
8	7	演文庫/集181/66	1934	(23)	9月1日		六	夜戯	北平	吉祥大戲院		
9	8	演文庫/集181/69	1934	(23)	9月8日		六	夜戯	北平	開明劇院		
10	9	演文庫/集181/134	1934	(23)	9月30日		六	白天	北平	華泰園		
11	10	演文庫/集181/58	1934	(23)	10月4日		四	白天	北平	吉祥戲院		
12	11	演文庫/集181/58	1934	(23)	10月5日		五	夜戯	北平	吉祥戲院		吉祥戲院劇報 第194期第2種
13	12	演文庫/集181/42	1934	(23)	10月5日		六	白天	北平	第一舞台		山東水災籌賑義務夜戯、1北平的中国戯』62頁に掲載
14	13	演文庫/集181/37	1934	(23)	10月6日		六	白天	北平	吉祥戲院		
15	14	演文庫/集181/61	1934	(23)	10月7日		六	白天	北平	吉祥戲院		吉祥戲院劇報 第196期第2種
16	15	演文庫/集181/86	1934	(23)	10月15日		一	白天	北平	吉祥戲院		
17	16	演文庫/集181/63	1934	(23)	10月19日		一	白天	北平	吉祥戲院		
18	108	演文庫/集181/59	1934	(23)	10月20日	9月23日	二	白天	北平	吉祥戲院		吉祥戲院劇報 第209期第2種 ※第一版で1936年10月20日とした誤りを修正
19	17	演文庫/集181/4	1934	(23)	10月30日		六	夜戯	北平	広和樓		
20	18	演文庫/集181/112	1934	(23)	11月2日	9月29日	二	夜戯	北平	哈爾飛戲院		
21	19	演文庫/集181/7	1934	(23)	11月5日		五	白天	北平	廣泰戲院		
22	20	演文庫/集181/30	1934	(23)	11月10日		一	白天	北平	吉祥戲院		
23	21	演文庫/集181/78	1934	(23)	11月15日		四	白天	北平	三慶戲院		
24	22	演文庫/集181/101	1934	(23)	11月18日		六	白天	北平	哈爾飛戲院		
25	23	演文庫/集181/77	1934	(23)	11月23日		五	白天	北平	吉祥大戲院		
26	24	演文庫/集181/120	1934	(23)	11月26日		一	夜戯	北平	哈爾飛戲院		
27	25	演文庫/集181/79	1934	(23)	12月19日		三	白天	北平	華泰戲院		
28	26	演文庫/集181/72	1934	(23)	12月23日		日	白天	北平	開明劇院		
29	27	演文庫/集181/94	1934	(23)	12月30日		五	白天	北平	開明劇院		
30	28	演文庫/集181/85	1935	(24)	1月4日		一	夜戯	北平	哈爾飛戲院		
31	29	演文庫/集181/85	1935	(24)	1月8日		六	夜戯	北平	中和戲院		
32	30	演文庫/集181/93	1935	(24)	1月12日		二	白天	北平	中和戲院		
33	31	演文庫/集181/93	1935	(24)	1月13日	12月22日	六	白天	北平	哈爾飛戲院		商業日報八千号記念
34	32	演文庫/集181/123	1935	(24)	1月26日		六	白天	北平	第一舞台		
35	33	演文庫/集181/122	1935	(24)	3月2日		六	白天	北平	華泰戲院		
36	34	演文庫/集181/133	1935	(24)	3月3日	2月4日	日	夜戯	北平	華泰戲院		
37	35	演文庫/集181/121	1935	(24)	3月8日		五	夜戯	北平	華泰戲院		
38	36	演文庫/集181/10	1935	(24)	3月10日	2月12日	日	白天	北平	華泰戲院		『北平的中国戯』25頁に掲載
39	37	演文庫/集181/87	1935	(24)	3月16日		六	白天	北平	中和戲院		
40	38	演文庫/集181/87	1935	(24)	3月24日		日	白天	北平	中和戲院		
41	39	演文庫/集181/124	1935	(24)	3月31日		日	白天	北平	華泰戲院		
42	40	演文庫/集181/125	1935	(24)	4月7日		日	白天	北平	華泰戲院		
43	41	演文庫/集181/92	1935	(24)	4月13日		六	夜戯	北平	哈爾飛戲院		
44	42	演文庫/集181/83	1935	(24)	4月21日		六	白天	北平	中和戲院		
45	43	演文庫/集181/75	1935	(24)	4月24日	3月22日	三	白天	北平	吉祥大戲院		
46	44	演文庫/集181/99	1935	(24)	4月29日		一	白天	北平	吉祥大戲院		
47	45	演文庫/集181/116	1935	(24)	4月29、30日、5月1日		一	夜戯	北平	吉祥大戲院		
48	46	演文庫/集181/54	1935	(24)	5月12日		日	夜戯	北平	吉祥大戲院		
49	47	演文庫/集181/35	1935	(24)	5月12日		日	夜戯	北平	吉祥大戲院		
50	48	演文庫/集181/88	1935	(24)	5月21、22日		日	夜戯	北平	吉祥大戲院		
51	49	演文庫/集181/35	1935	(24)	5月31日		五	白天	北平	協和社、豐 泰、共益舞台		※第一版での配列ミスを修正
52	50	演文庫/集181/74	1935	(24)	6月5日	4月29日	五	白天	北平	協和社、豐 泰、共益舞台		話劇、第二屆公演、三個独幕劇、演文庫/集181/2の入場券の年の記載による ※第一版での配列ミスを修正
53	203	未整理	1935	(24)	6月9日	5月9日	(日)	白天	北平	広和樓		
54	49	演文庫/集181/56	1935	(24)	6月11日		二	白天	北平	哈爾飛戲院		
55	50	演文庫/集181/95	1935	(24)	7月2日		三	白天	北平	哈爾飛戲院		
56	51	演文庫/集181/95	1935	(24)	7月10日		四	白天	北平	哈爾飛戲院		
57	52	演文庫/集181/126	1935	(24)	7月11日		四	白天	北平	哈爾飛戲院		
58	53	演文庫/集181/96	1935	(24)	7月13日		六	白天	北平	華泰戲院		
59	204	未整理	1935	(24)	7月13日		一	白天	北平	哈爾飛戲院		
60	54	演文庫/集181/57	1935	(24)	7月15日		六	白天	北平	哈爾飛戲院		
61	55	演文庫/集181/46	1935	(24)	7月21日	7月1日	二	白天	北平	哈爾飛戲院		
62	56	演文庫/集181/29	1935	(24)	7月30日		一	白天	北平	廣泰戲院		
63	57	演文庫/集181/117	1935	(24)	8月3日		六	白天	北平	華泰戲院		
64	58	演文庫/集181/5	1935	(24)	8月5日		二	白天	北平	中和戲院		
65	59	演文庫/集181/89	1935	(24)	8月7日		三	夜戯	北平	吉祥大戲院		
66	60	演文庫/集181/81	1935	(24)	8月11日		日	夜戯	北平	吉祥大戲院		
67	61	演文庫/集181/82	1935	(24)	8月12日		一	夜戯	北平	中和戲院		
68	62	演文庫/集181/98	1935	(24)	8月19日		一	白天	北平	吉祥大戲院		
69	63	演文庫/集181/73	1935	(24)	8月23日	7月25日	五	白天	北平	廣和樓		
70	64	演文庫/集181/38	1935	(24)	8月23日	7月26日	六	夜戯	北平	哈爾飛大戲院		
71	65	演文庫/集181/132	1935	(24)	8月24日		日	夜場	北平	吉祥戲院		火災義賑会特請程硯秋先生急振飛先生義務参加表演
72	66	演文庫/集181/60	1935	(24)	8月28日	8月1日	三	夜場	北平	吉祥戲院		吉祥戲院 第377期第2種
		演文庫/集181/40	1935	(24)	8月29日		四	夜場	北平	広和樓		

148	235	英文庫	未整理	1938	27	6月11日	六	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
149	236	英文庫	未整理	1938	27	6月13日	一	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
150	237	英文庫	未整理	1938	27	6月20日	一	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
151	238	英文庫	未整理	1938	27	6月23日	四	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
152	239	英文庫	未整理	1938	27	6月25日	六	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
153	240	英文庫	未整理	1938	27	6月25日	六	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
154	241	英文庫	未整理	1938	27	6月26日	六	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
155	242	英文庫	未整理	1938	27	6月30日	四	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
156	243	英文庫	未整理	1938	27	7月2日	六	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
157	244	英文庫	未整理	1938	27	7月4日	一	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
158	245	英文庫	未整理	1938	27	7月12日	一	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
159	246	英文庫	未整理	1938	27	7月15日	五	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
160	247	英文庫	未整理	1938	27	7月23日	六	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
161	248	英文庫	未整理	1938	27	7月25日	一	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
162	249	英文庫	未整理	1938	27	7月25日	一	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
163	250	英文庫	未整理	1938	27	8月2日	二	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
164	251	英文庫	未整理	1938	(27)	8月7日	二	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
165	252	英文庫	未整理	1938	(27)	8月9日	二	夜戲	北平	吉伴戲院	宮運成	戲曲學校
166	253	英文庫	未整理	1938	(27)	8月9日	二	夜戲	北平	廣和戲院	宮運成	戲曲學校
167	254	英文庫	未整理	1938	27	8月13日	二	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
168	255	英文庫	未整理	1938	27	8月16日	二	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
169	256	英文庫	未整理	1938	(27)	8月21日	四	日暮	北平	廣和戲院	戲曲學校	戲曲學校
170	257	英文庫	未整理	1938	27	10月2日	日	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
171	258	英文庫	未整理	1938	27	10月9日	日	白天	北平	華樂大戲院	宮運成	宮運成
172	259	英文庫	未整理	1939	28	1月21日	六	白天	北平	華樂大戲院	宮運成	宮運成
173	260	英文庫	未整理	1939	28	2月6日	一	夜戲	北平	新新大戲院	宮運成	宮運成
174	261	英文庫	未整理	1939	28	2月21日	一	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
175	262	英文庫	未整理	1939	28	2月22日	一	夜戲	北平	新新大戲院	宮運成	宮運成
176	263	英文庫	未整理	1939	28	2月27日	一	夜戲	北平	華樂大戲院	宮運成	宮運成
177	264	英文庫	未整理	1939	28	3月9日	三	白天	北平	華樂大戲院	宮運成	宮運成
178	265	英文庫	未整理	1939	28	3月28日	一	白天	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
179	266	英文庫	未整理	1939	28	3月26日	六	白天	北平	中和大戲院	宮運成	宮運成
180	113	英文庫/集181/34	今般	不明	不明	5月4日	四	夜戲	北平	華樂劇院	宮運成	宮運成
181	114	英文庫/集181/67	今般	不明	不明	不明	五	夜戲	北平	中和大戲院	宮運成	宮運成
182	117	英文庫/集181/70	不明	不明	不明	不明		准8時上場	北平	中和大戲院	宮運成	宮運成
183	182	英文庫	未整理	不明	不明	不明			北平	開明大戲院	宮運成	宮運成

以下、説明書3点

184115
185116
186118

英文庫/集181/49
英文庫/集181/68
英文庫/集181/115

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明

不明
不明
不明</

凡例

1. 戯単目録番号とは、「漢文庫所蔵戯単篇編年目録」(『中国文学論集』37, 2008)で付した番号である。整理済み分に1～118の番号を、未整理分に201～268の番号を付した。
2. ()で括ったものは、戯単そのものには記載がなく、編者が推定したことを示す。
3. 網かけしたものは、漢一衛が2度の旅行で観劇した際に入手した戯単を示す。
4. 日本古劇期は北京と称したが、ここではすべて北平に統一した。